

2013 年度 研究センター事業報告書

研究センター名	環太平洋文明研究センター
研究センター長名	安田 喜憲

I. 研究成果の概要（公開項目）

本欄には、研究センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、研究センター5か年計画に記載した内容に照らし、項目立てなどをおこなうことができるだけわかりやすく記述してください。

■拠点全体の研究成果

1. 公開シンポジウムの開催:2 度の公開シンポジウム(環太平洋文明研究センター創設記念シンポジウム、函館シンポジウム「環太平洋の文明拠点:津軽海峡圏の縄文文化」)を開催した。創設記念シンポジウムでは、当センター創設の目的を一般に公表し、函館シンポジウムでは、年縞分析や考古学研究など当センターの研究成果が、「世界をリードする新たな価値観」となり得ることを発信した。
2. 特別講演会、国際ワークショップの開催:特別講演会や国際ワークショップ「環太平洋の環境文明史」を通し、国内外の研究者と最新の学術成果を共有し、今後の展望や研究課題について意見交換を行った。また、今後の研究協力へ向け、体制を構築することができた。
3. 若手研究者の育成:若手研究者に研究発表の場を提供することを目的に定例研究会を設け、これまでに2 度開催、いずれも盛会であった。今後は毎月行う予定である。

■各グループの研究成果

1. 第1班:渡辺が代表として申請した科学研究費・基盤研究(A)が2013年10月に追加採択となり、10月からの半年は、R-GIRO 拠点形成型(10月採択)の計画と基盤研究(A)の計画の調整および、各自の予定する現地調査によるデータの収集中心に進めた。富田は、モンゴルにて、(1)移行経済下の都市周辺地域における牧畜経営の実態とその特徴、(2)社会主義時代の農牧業開発が人間=環境関係に及ぼした影響について、聞き取り調査および資料収集を行い、この成果を、2014年5月の国際人類学民族科学連合にて報告予定である。また、モリは、香港および台湾にて、インタビュー調査と資料収集を行った。
2. 第2班:安田は、2014年2月、中南米(ブラジル、チリ、コロンビア)を訪問し、過去の気候変動や災害がこの地域の文明に与えた影響についての調査と、新規ボーリングの対象地の調査を実施した。これにより、第4班との連携研究が期待できるとともに、中南米での災害史復元の足がかりができた。これに伴い、日本の花粉と中南米の花の形態は全く異なるため、中南米の花の花粉分析の専門家を招聘し(特別講演会、国際ワークショップ)、分析方法について教授いただいたことにより、より精度の高い環境史の復元が期待できる。また、縄文文化研究において第3班と連携し、函館でシンポジウムを開催した。縄文文化の起源について、津軽海峡をはじめとする海洋環境の変動がきわめて大きな影響を与えている事が明らかになりつつある。環太平洋各地の年縞分析については、現状保有しているグアテマラとペルーの湖沼や、秋田県一の目潟と小川原湖で採取されたサンプルの再分析も進んでいる。
3. 第3班:向日市寺戸川立坑の土壌資料の分析を、(1)年代測定、(2)花粉分析、(3)埋没木材の樹種同定によって進めたほか、縄文時代前期末の大規模洪水層を確認した。この分析をもとに、5万年以前から現在にいたる環境史復元のための基礎データを作成し、2014年7月日本文化財科学会で報告予定である。矢野は、縄文晩期～弥生前期の遺跡推移の動向に関して、京都盆地、大阪平野、阪神間地域の3ヶ所で遺跡地図とデータベースを作成、これらは、縄文文化と弥生文化の移行解析を行うための基盤となることが期待できる。また、縄文早期前半の本州西部の遺跡数変化のグラフを地域別に作成、公表した(矢野、2014年2月)。この時期の詳しいデータベースとしては最新かつ希少で、気候変化が人間活動に与えた影響を理解する貴重なデータとなる。
4. 第4班:チリ北部から南米大陸南端までの地形分析や植生調査などのフィールドワークにより、チリ・バルデビアで地形分析の調査が進行しつつある。例えば、テムコからプエルトモン地域に分布する湖の地形調査によって、年縞研究や津波研究を行うのに適当な湖として、Lago Budiなどが選定できた。また、アンデス山脈に多くの火山が存在し、巨大地震の発生した直後に噴火することが判明した。この地域で湖沼堆積物が採取できると、地震に関連した災害史の復元が期待できる。さらに、スペイン人入植後における森林伐採とその後の災害、オランダ人居住地の関係が推測されるデータが得られた。このことは、現在や未来の洪水被害や地震、津波被害を検討するうえで、極めて重要なことと言える。

II. 研究業績 (公開項目)

本欄には、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2014年3月31日時点)

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	竹田武史	シッタールタの旅	共著	2013年4月	新潮社	ヘルマンヘッセ共著	
2	那須浩郎	雑穀と雑草の多様性	共著	2013年6月	誠文堂新光社, 『ビオストーリー』vol.19	ビオストーリー(編)	PP.2-3
3	那須浩郎	イネと出会った縄文人ー縄文時代から弥生時代へー	共著	2013年12月	新泉社, 『工藤雄一郎・国立歴史民俗博物館編「ここまでわかった! 縄文人の植物利用」』	工藤雄一郎(編)	PP.186-205
4	那須浩郎	イネの栽培化のはじまり	共著	2013年12月	国立民族学博物館, 『月刊みんぱく』第37巻第12号	国立民族学博物館(編)	PP.4-5
5	安田喜憲	1万年前 気候大変動による食糧革命、そして文明誕生へ	単著	2014年1月	イーストプレス		278P
6	中村大	7.5 考古資料の可視化ーGISによる空間分析ー	共著	2014年1月	朝倉書店, 『地球環境学マニュアル 2 はかる・みせる・読みとく』	総合地球環境学研究所 編	PP.122-123
7	上峯篤史	京都市一乗寺向畑町遺跡出土縄文時代資料ー考察編ー	共著	2014年3月	京都大学大学院文学研究会考古学研究室	上峯篤史, 妹尾祐介(編)	148P
8	野嶋洋子	バンクス諸島の「山」と「海」ー島嶼メラネシア・ヴァヌアツにおける先史社会と環境	共著	2014年3月	六一書房, 『琉球列島先史・原史時代における環境と文化の変遷に関する実証的研究 研究論文集 第2集 琉球列島先史・原史時代の環境と文化の変遷』	高宮広土, 新里貴之(編)	
9	山田和芳	内湾堆積物に記録された過去約2,000年間の沖縄諸島環境史	共著	2014年3月	六一書房, 『琉球列島先史・原史時代における環境と文化の変遷に関する実証的研究 研究論文集 第2集 琉球列島先史・原史時代の環境と文化の変遷』	高宮広土, 新里貴之(編)	

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	Kazuo Aoyama	Del Amanecer al Ocaso: La Historia del Grupo A de Ceibal	共著	2013年5月	XXVI Simposio de Investigaciones Arqueologicas en Guatemala	Castillo Aguilar, Victor, Takeshi Inomata, Daniela Triadan, Juan Manuel Palomo, Flory Pinzon, Maria Belen Mendez	PP.21-34	無
2	Li, X.un	Untangling the causes of vegetation change in a 5,300 year pollen record at Tiniroto Lakes, Gisborne, New Zealand	共著	2013年5月	Vegetation History and Archaeobotany	Flenley, JR., & Rapson, GL.	PP.1-10	無

3	山田和芳	水月湖ボーリングコアを用いた天正地震 (AD 1586) 前後の湖底堆積物の分析	共著	2013年7月	東京地学協会, 地学雑誌, 122巻3号	齋藤めぐみ, リチャード スタッフ, 中川 毅, 米延仁志, 原口 強, 竹村 恵二, クリストファー ラムジー	PP. 493-501	有
4	山田和芳	第四紀研究における年代測定法の新展開: 最近10年間の進展—特集 I 「放射性炭素年代」	共著	2013年9月	海洋出版, 月刊地球, No.35	奥野充, 下岡順直	PP. 490-568	無
5	安田喜憲	山岳信仰と富士山	単著	2013年10月	藤原書店, 環, 55号		PP. 90-101	無
6	渡辺公三	ジャレド・ダイヤモンド著『昨日までの世界』	単著	2013年11月	比較文明学会, 比較文明, 29巻		PP. 139-142	無
7	山田和芳	琵琶湖高島沖ボーリングコア中の過去約13万年間の生物源シリカ含有率から見た古気候変遷	共著	2013年11月	地質汚染—医療地質—社会地質学会, 第23回環境地質学シンポジウム論文集	村越貴之, 根上裕成, 井内美郎	PP. 213-218	無
8	山田和芳	島根県宍道湖湖底堆積物に記録された完新世中期以降の冬季アジアモンスーン変動	共著	2013年11月	地質汚染—医療地質—社会地質学会, 第23回環境地質学シンポジウム論文集	高安克己	PP. 219-224	無
9	山田和芳	過去約4.5万年間の琵琶湖古水位変動	共著	2013年11月	第23回環境地質学シンポジウム論文集	井内美郎, 岡村 眞, 松岡裕美, 里口保文, 芳賀祐樹, 林竜馬, 根上裕成, 村越貴之	PP. 213-218	無
10	矢野健一	近畿北部縄文早期後半の土器編年	単著	2013年12月	第14回関西縄文文化研究会 但馬の縄文文化		PP. 20-34	無
11	青山和夫	先コロンプス期アメリカ大陸史に関する世界史教科書の記述はどう変わったのか: 新学習指導要領に沿って改訂された高等学校世界史教科書の検証	共著	2013年12月	古代アメリカ, No.16	坂井正人, 井上幸孝, 井関睦美, 長谷川悦夫, 嘉幡茂, 松本雄	PP. 85-106	有
12	Junko Kitagawa	Human impact on the Kiso-hinoki cypress woodland in Japan: a history of exploitation and regeneration	共著	2013年12月	Springer Berlin Heidelberg, Vegetation History and Archaeobotany, DOI 10.1007/s00334-013-0423-1	Toshiyoshi Fujiki, Kazuyoshi Yamada, Yasuharu Hoshino, Hitoshi Yonenobu, Yoshinori		有
13	長谷川悦夫	ニカラグア共和国チヨントレス県における考古学調査	単著	2013年12月	古代アメリカ, No.16		PP. 43-58	有

14	山田和芳	第四紀研究における年代測定法の新展開:最近10年間の進展—特集II「放射線損傷年代・放射年代」	共著	2013年12月	海洋出版, 月刊地球, No.62	奥野充, 下岡順直	206P	無
15	安田喜憲	豊かな海と共に生きる街づくり	単著	2013年	京都大学こころの未来センター, こころの未来, vol.11		PP. 16-20	無
16	Manabu Takahashi	Damages Caused by Tsunami during Great Tohoku Earthquake- Perspective of Environmental History-	単著	2013年	I.G.U. Proceedings 電子版			無
17	Mai Takigami	Primeros fechados radiocarbónicos para el sector B del sitio Alero Deodoro Roca (Ongamira, Córdoba, Argentina)	共著	2013年	Relaciones de la Sociedad Argentina de Antropología XXXVIII (2), julio-diciembre	ROXANA CATTÁNEO, ANDRÉS D. IZETA y	PP. 559-567	有
18	Fujiki, Toshiyuki	Radiocarbon chronology and pollen analysis of core KS0412-3 from Kashibaru Marsh in northern Kyushu, southwest Japan	共著	2013年	<i>Radiocarbon</i> , 55	Okuno M., Nakamura T., Nagaoka S., Mori Y., Ueda, K., Konomatsu M., and Aizawa, J.	PP. 1693-1701	無
19	中村大	『防長風土注進案』の産物記載にみる食品目録 (1) 農作物・採集品を中心に	共著	2014年1月	山口大学教育学部, 山口大学教育学部研究論叢, 63巻第1部	松森智彦, 山根麻希, 五島淑子	PP. 105-114	無
20	中村大	『明治十年全国農産表』記載の穀類に関するGIS分析	共著	2014年1月	山口大学教育学部, 山口大学教育学部研究論叢, 63巻第1部	五島淑子	PP. 115-122	無
21	矢野健一	押型土器遺跡数の変化	単著	2014年2月	東海縄文文化研究会, 東海地方における縄文時代早期前葉の諸問題		PP. 73-86	無
22	青山和夫	メソアメリカの自然環境と文化変化	単著	2014年3月	琉球列島先史・原史時代における環境と文化に関する実証的な研究 研究論文集[第2集] 琉球列島先史・原史時代の環境と文化の変遷		PP. 267-280	無
23	山田和芳	第四紀研究における年代測定法の新展開:最近10年間の進展—特集III「相対年代と古環境の高精度復元」	共著	2014年	海洋出版, 月刊地球, 号外, No. 63	下岡順直, 奥野充	182P	無
24	山田和芳	年縞編年学の進歩	共著	2014年	海洋出版, 月刊地球, 号外, No. 63	五反田克也, 篠塚良嗣, 斎藤めぐみ, 藤木利之, 瀬戸浩二, 原口強・奥野充, 米延仁志, 安田喜憲	PP. 23-30	無

25	外山秀一	プラント・オパール 土器胎土分析からみ た雑穀の利用	単著	2014年	日韓における穀物栽培の開始 と農耕技術		PP. 61-67	無
26	森勇一	三重県津市の東海層 群亀山層から得られ た海生珪藻化石と高 海水準期イベント	共著	2014年	<i>Diatom</i> , 29	宇佐美徹, 斎藤めぐみ	PP. 1-11	無
27	森勇一	愛知県八竜湿地にお けるボーリング試料 の年代と古環境	共著	2014年	名古屋大学加速器質量分析計 業績報告書 (XXV)	小野知洋, 中村俊夫	PP. 125-132	無

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	Li, Xun	Lipid-based paleotemperature reconstructions for the late Quaternary in southern New Zealand, part 2: preliminary applications	2013年4月	VII Southern Connections Congress, Dunedin, New Zealand	Vandergoes, M.J., Zink, K.G., Newnham, R., Wilmshurst, J., Dieffenbacher-Krall, A.C., Schwark, L.
2	Manabu Takahashi	環境考古学的視点から社会 の安全性を考える—バルデ ビア—	2013年10月	aller Educand a la para Enfrentar Desastres Naturales—Valdivia—, チリ 環境省, バルデビア市役所大会議室	
3	Manabu Takahashi	Pensar en la Seguridad de la Sociedad desde la perspective paleomedioambiental	2013年10月	Taller Educand a la para Enfrentar Desastres Naturales —Antfagasta—, チリ環境省, Hotel Antofagasta	
4	Manabu Takahashi	古環境から社会の安全を考 える—Valparaiso—	2013年10月	Taller Educand a la para Enfrentar Desastres Naturales—Valparaiso—, チリ環境省, Salon Direction, Centro de Extension DUOC	
5	Kazuyoshi Yamada	Changes in the occurrence of oxygen-poor bottom water in the past 6,000 years in Lake Shinji, southwestern Japan and a possible linkage to East Asian monsoon activities	2013年10月	The 10th East Eurasia International Workshop, Gwangju Korea	Katsumi Takayasu
6	近藤宏	財としての「土地」の出現 —パナマ東部先住民エン ペラの新しい土地利用の形 式	2013年10月	環太平洋文明研究センター第1回定例 研究会, 立命館大学衣笠キャンパス	
7	上峯篤史	石器研究とは何だろうか?	2013年10月	関西学生考古学研究会 はじめまし て! 考古学, 京都・同志社大学	
8	岩田京子	1930年代の森林風致言説 からみる風景思想—林 学・造園学の学知と歴史意 識の交錯地点	2013年10月	第38回社会思想史学会大会, 関西学院大学上ヶ原キャンパス	
9	中村大	亀ヶ岡文化の葬制	2013年10月	青森県考古学会, 平成25年度秋季大会, 青森県五所川原市・市浦コミュニティ センター	

10	小川さやか	使い捨て文化を考える — 中古品と非正規品の流通を事例に	2013年11月	白山人類学研究会 2013年度第5回, 東洋大学	
11	小川さやか	草の根のグローバル化のダイナミズム—東アフリカ商人の模造品取引を事例に	2013年11月	日本文化人類学会公開シンポジウム 『現代人類学のフィールドワーク力』, 京都大学	
12	富田敬大	牧畜語彙 (特に家畜名称) について	2013年11月	国立民族学博物館共同研究「梅棹忠夫モンゴル研究資料の学術的利用 (代表小長谷有紀)」, 国立民族学博物館	
13	富田敬大	モンゴル都市周辺地域における定着化政策と牧畜経営の実態	2013年11月	地球研 IS「伝統知と現代科学の融合による地球温暖化対応策の提言 (代表立入郁)」研究会「モンゴル地域研究: これまでの成果と残された課題」, 総合地球環境学研究所	
14	石田智恵	1970年代軍政下アルゼンチンにおける日本人の「主流」と「傍流」	2013年11月	日本人の国際移動研究会 (立命館グローバル・イノベーション研究機構研究プロジェクト「第二次世界大戦による在外日本人の強制退去・収容・送還と戦後日本の社会再建に関する研究」2010-2014年度) 定例研究会, 京都私学会館	
15	Yoshinori Yasuda	High-resolution environmental history in Jeju Island revealed by the study of Hanon Maar deposits	2013年11月	The 5th International Symposium for Restoration and Preservation of the Hanon Crater, Jeju Korea	Makohonienko, M. Naruse, T.
16	小川さやか	非正規品取引システムにみるインフォーマル経済のダイナミズム	2013年12月	シンポジウム 21世紀10年代日本文化の軌道修正: 過去の検証と将来への提言『商取引・芸術創作・海賊行為: 社会制度の結び目は文化創造のニッチとなるか?』, 国際日本文化研究センター	
17	石田智恵	南米「棄民」の子の「戦後」— 準二世のねじれ	2013年12月	立命館大学生存学研究所特別企画「帝国の盛衰と日本人の移動」, 立命館大学衣笠キャンパス	
18	石田智恵	1970年代アルゼンチン軍政下「行方不明者」をめぐる日本人移民コミュニティ内の動向	2013年12月	日本ラテンアメリカ学会西日本部会, 同志社大学鳥丸キャンパス	
19	市木尚利	地方における博物館の役割—ペルー共和国アンコンでの活動紹介	2013年12月	立命館大学衣笠キャンパス啓明館 1階学芸員課程実習展示室	
20	中村大	縄文人のこころは理解可能か—環状列石や土偶を統計解析とGISで読み解く	2013年12月	環太平洋文明研究センター第2回定例研究会, 立命館大学衣笠キャンパス	
21	那須浩郎	縄文時代中期におけるダイズとアズキの野生種と栽培種の共存	2013年12月	第28回日本植生史学会, 高知	佐々木由香, 会田進, 中沢道彦
22	那須浩郎	古代から近代までの水田雑草の多様性変化: 茅ヶ崎市本村居村B遺跡での事例	2013年12月	第28回日本植生史学会, 高知	
23	Mai Takigami	The impact of the Inca conquest on the Chachapoya diet	2013年	8th World Congress on Mummy Studies, Rio de Janeiro, Agosto	Sonia Guillén, Fuyuki Tokanai, Kazuhiro Kato, Hiroyuki Matsuzaki, Minoru Yoneda,
24	安田喜憲	青森県小川原湖に記録された中期〜後期完新世の堆積環境の変遷	2014年1月	汽水域研究会第2回例会, 松江	永島郁, 瀬戸浩二, 渡邊隆広, 奈良郁子, 山田和芳, 米延仁志
25	Manabu Takahashi	地域における自然現象のインパクト	2014年1月	持続可能な発展のための地域ベースの環境教育の推進, チリ環境省, 国連ビル	
26	Manabu Takahashi	バルデビアにおける自然環境の変貌と人間活動	2014年1月	持続可能な発展のための地域ベースの環境教育の推進—バルデビアー, チリ環境省, バルデビア市役所大会議室	

27	Manabu Takahashi	Pensar en la Seguridad de la Sociedad desde la perspectiva paleoambiental - Antofagasta -	2014年1月	持続可能な発展のための地域ベースの環境教育の推進-アントファガスター, チリ環境省, Hotel Antofagasta	
28	篠塚良嗣	北海道網走湖における完新世の古環境変遷史の研究1—完新世ボーリングの記載—	2014年1月	汽水域研究会第2回例会, 松江	瀬戸浩二, 山田和芳, 五反田克也, 米延仁志
29	山田和芳	小川原湖を襲った縄文津波(予報)	2014年1月	汽水域研究会第2回例会, 松江	瀬戸浩二, 永島郁, 渡邊隆広, 奈良郁子, 安田喜憲
30	安田喜憲	東アジアの肥沃な三日月地帯	2014年2月	「環太平洋の環境文明史」国際ワークショップ, 立命館大学朱雀キャンパス	
31	近藤宏	形態的イメージをめぐって—パナマ東部先住民エンペラにおける動物に関する諸言説	2014年2月	科学研究費A「動物殺し比較民族学(代表者:奥野克己)」研究会, 桜美林大学	
32	小川さやか	Living for Today の人類学	2014年2月	日本文化人類学会関東地区研究懇談会, 早稲田大学	
33	山田和芳	マヤ文明の興亡と環境変動	2014年2月	「環太平洋の環境文明史」国際ワークショップ, 立命館大学朱雀キャンパス	
34	Manabu Takahashi	Caso de estudio: Efectos del tsunami del Japon del 2011	2014年3月	II DIPLOMADO TSUNAMI, バルバラライソ カトリック大学海洋研究所	
35	矢野健一	日本列島に展開した縄文文化と文化領域	2014年3月	函館シンポジウム「環太平洋の文明拠点:津軽海峡圏の縄文文化」, 函館市縄文文化交流センター	
36	近藤宏	森と土地からなる現在—パナマ東部先住民エンペラの同時代史に関する人類学的考察	2014年3月	日本文化人類学会 近畿地区博士論文発表会, 国立民族学博物館	
37	篠塚良嗣	年縞による縄文時代における東北北部の気候変動	2014年3月	函館シンポジウム「環太平洋の文明拠点:津軽海峡圏の縄文文化」, 函館市縄文文化交流センター	山田和芳
38	中村大	土偶と環状列石—定量的分析の可能性	2014年3月	函館シンポジウム「環太平洋の文明拠点:津軽海峡圏の縄文文化」, 函館市縄文文化交流センター	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	環太平洋文明研究センター創設記念シンポジウム	衣笠キャンパス	2013年5月	228名	科学研究費助成事業新学術領域研究「環太平洋の環境文明史」, 立命館大学歴史都市防災研究所
2	イスレーベ氏特別講演会	衣笠キャンパス	2013年11月	20名	WAC Japan
3	第1回定例研究会	衣笠キャンパス	2013年10月	18名	
4	第2回定例研究会	衣笠キャンパス	2013年12月	21名	
5	「環太平洋の環境文明史」国際ワークショップ	朱雀キャンパス	2014年2月	65名	国際日本文化研究センター
6	函館シンポジウム「環太平洋の文明拠点:津軽海峡圏の縄文文化」	函館北洋ビル, 函館市縄文文化交流センター	2014年3月	300名	函館市教育委員会, 道南縄文文化推進協議会, NPO 法人 函館市埋蔵文化財事業団

5. その他研究活動(報道発表や講演会等)				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	青山和夫	マヤ 前 1000 年に公共祭祀建築グアテマラの遺跡で供物発掘	読売新聞朝刊全国版	2013年6月
2	上峯篤史	記念講演 縄文考古学の“それから”と“これから”	山添村歴史民俗資料館 リニューアルオープン記念式典, 奈良・山添村歴史民俗資料館	2013年10月27日

3	渡辺公三	文化人類学から見た文明論—人類の越し方と行く末	東京オトナ大学, サピアタワー	2013年11月4日
4	中村大	遺跡情報の見せ方 イギリス向け教材作成を通じて	秋田県世界遺産登録推進フォーラム, 秋田市・秋田県庁第二庁舎	2013年11月9日
5	渡辺公三	包む身体 包まれる身体—言葉によらないコミュニケーションの次元	パフォーマンスキッズ・トーキョーフォーラム: 社会性とは何か? コミュニケーションと身体感覚, アーツ千代田 3331	2013年12月21日
6	山田和芳	堆積物を用いた環太平洋諸文明の高精度環境史復元	福島大学共生システム理工学研究科研究プロジェクト型実践教育推進センター主催学術講演会, 福島	2013年
7	森勇一	東海層群から産出した昆虫化石—新第三紀の終焉と第四紀の始まり—東海層群から読み解く気候変動—	日本第四紀学会・日本地質学会, 三重県総合博物館, 津	2013年
8	上峯篤史	石器から探る遺跡のつながり	郷土史教室, 大阪・茨木市立文化財資料館	2014年2月15日
9	安田喜憲	年縞が解明する縄文の人類史的意味とその開始をめぐる	函館シンポジウム「環太平洋の文明拠点: 津軽海峡圏の縄文文化」	2014年3月1日
10	矢野健一	津軽海峡圏に展開した縄文文化とその活用: 世界遺産登録に向けて	函館シンポジウム「環太平洋の文明拠点: 津軽海峡圏の縄文文化」	2014年3月1日
11	那須浩郎	フローテーション法による炭化マメの検出の成果とその意味	講演会・フリートーク「縄文農耕を問う(中部山岳地域縄文時代マメ栽培過程の解明)」, 原村	2014年3月1日
12	安田喜憲	海峡圏の縄文文化、豊かさ世界に発信—道内、東北の研究者、函館でシンポ	北海道新聞	2014年3月2日
13	安田喜憲	縄文、世界の新たな価値観に—津軽海峡圏の文化学ぶ	函館新聞	2014年3月2日
14	渡辺公三	手が作りだした世界	はじまりの造形: まねること・くりかえすこと リズムの起源, はげの森美術館	2014年3月16日

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	なし				

7. 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	渡辺公三	環境考古学を基軸とした人類学的「環太平洋文明学」の構築	基盤研究 (A) (一般)	2013年10月	2017年3月	代表
2	那須浩郎	古代と中世における農耕地雑草の多様性変化と人間活動の関係	若手研究 (B)	2013年4月	2016年3月	代表
3	那須浩郎	中部山岳地域縄文時代におけるマメ栽培過程の解明	基盤研究 (B) (一般)	2013年4月	2017年3月	分担
4	那須浩郎	岩陰遺跡の環境考古学—先端手法による生業と古環境の高精度復元—	基盤研究 (B) (一般)	2013年4月	2016年3月	分担

8. 競争的資金等(科研費を除く)						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	なし					

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録(特許)番号	国
1	なし							

以上。